

普及活動情勢報告（令和元年5月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ICTの活用により定住条件を強化 ～四万十町スマート定住対策協議会設立準備会の開催～



意見交換する委員

4月24日、四万十町役場多目的大ホールで、四万十町スマート定住対策協議会に係る設立準備会が開催され、農業者代表や普及所長など四万十町内の組織等から選出された委員12名が参加しました。

本協議会は、農産漁村振興交付金を活用して衰退が懸念される農漁村のコミュニティーをICT（情報通信技術）を活用して環境整備に取り組むもので、農業分野ではアプリによる農産物の販路開拓実証や、農家の意向調査を実施する事業計画が承認されました。

普及所は、今後も四万十町役場と連携し、ICTを活用したスマート農業の実用化に向けた取組を支援していきます。

平成31年度総会の開催に向けて ～高南地域営農協議会幹事会の開催～



事業計画などを話し合う幹事

4月25日、普及所会議室で、高南地域営農協議会幹事会が開催され、構成機関の代表等からなる幹事14名が参加しました。

31年度事業計画や事業予算、総会の議事や日程などについて協議しました。総会では、1月に12JAなどが統合し、県域JAとなったことで、JAの名称変更や、協議会の活動範囲を北幡地域に広げるなど、体制の見直しも行うこととしました。

普及所は、役場やJAなど関係機関との連携を一層強化し、高南地域の農業振興に取り組んでいきます。

酒米の安定生産と品質向上に向けて ～JA高知県四万十酒米生産部会の開催～



苗の生育を確認する生産者ら

4月26日、酒米生産者の各ほ場で、JA高知県四万十酒米生産部会の育苗現地検討会が開催され、生産者12名が参加しました。

普及所は、県独自品種「吟の夢」や「土佐麗」などの苗の生育状況を確認しながら、今後の管理などについて指導しました。

初めて酒米を栽培する参加者からは、「苗の被覆資材は、いつ頃外すのがいいか」など質問が出されました。今年は育苗期間中の気温の変化が大きく、経験者でも苗の被覆資材を外すタイミングが難しかったようでした。

普及所は、今後もJAと連携しながら、酒米生産部会の取り組みを支援していきます。

スマート農業技術の開発・実証プロジェクトを開始 ～半自動運転田植機等の試運転～



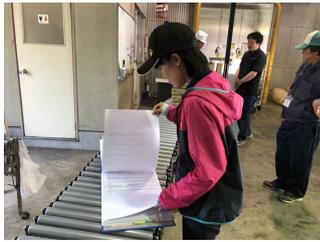
半自動運転田植機の操作方法の説明を受ける実証農業者ら

5月10日、実証ほ場で、直進キープ機能付の半自動運転田植機とリモコン式自走草刈機の試運転が行われ、実証農業者と共同実証機関の担当者など11名が参加しました。

実証農業者からは、田植機では「深水の時の田植えに便利」、草刈機では「夏場の草刈りが楽になりそう」などといった感想が聞かれました。

普及所は今後も、実証事業の進行管理役として実証農業者や共同実証機関と連携して、中山間地水田作のスマート農業技術体系の実証に取り組んでいきます。

JA出荷場のGAPの実施状況を確認 ～JA高知県幡多地区のGAP確認巡回の実施～



実施状況を確認する普及指導員

5月10日、JA高知県幡多地区大正、十和支所などの出荷場を販売担当者と普及指導員4名が巡回し、GAPの実施状況を確認しました。

各出荷場では、異物や規格外品混入、腐敗事故等の販売トラブルを未然に防止し、消費者・実需者の信用・信頼を高めるため、ガイドライン準拠GAPに取り組んでいます。

GAP点検シートの各項目を日々チェックするだけでなく、十分実施できていない項目については、今後の対応策を記入するなど、出荷場でのGAPに対する意識が向上しています。

普及所は、今後もJAと連携しながら継続的に、食品安全や、労働安全等の取組を支援していきます。